

加古川の課題 解決策を発表

甲南大生の6チーム

甲南大学(神戸市東灘区)の学生が、加古川市の課題解決策を考える「加古川『知』を結ぶプロジェクト」の成果報告会が19日、同大と同市役所をオンラインでつないで開かれた。写真。ゼミ単位の6チーム30人が、先端技術をまちづくりに生かす「スマートシティ」の取り組みや、子育て支援策などについて、調査、研究した内容を発表した。プロジェクトは同大と同



市、神戸新聞社が2016年から開始。学生らは昨秋から、担当者からの聞き取りなどを重ねてきた。

最優秀賞に選ばれた、経営学部
の西村順二教授ゼミ

のチームは、市民が「お散歩コース」を共有できるアプリを提案。健康増進の取り組みを、まちの魅力発見などにつなげられる仕組みづくりを説明した。

優秀賞には、子育ての情報発信をテーマにした知能情報学部、岳五一教授ゼミのチームを選出。学内選抜の岡村こず恵特任准教授ゼミのチームは、生ごみ再利用によるごみ減量を提案し、東播磨甲南会賞が贈られた。
(斉藤正志)